

港区立郷土歴史館 特別展

1964年 東京オリンピックと 都市の交通

今にいきるオリンピック・レガシー



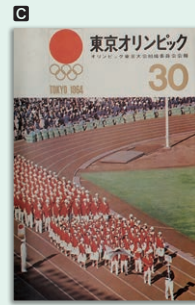
令和2(2020)年

7月18日(土) ▶ 9月22日(火祝)

MINATO
CITY
LOCAL
HISTORY
MUSEUM

港区立郷土歴史館

〒108-0071 港区白金台4-6-2 ゆかしの社内 電話 03-6450-2107 minato-rekishi.com



- A** 東京駅を出発する東海道新幹線の一列車 (佐藤元紀氏提供)
- B** 東京モノレール開通記念パンフレット
- C** 会報東京オリンピック
- D** 首都高速道路開通日の芝浦出入口付近
- E** 1964年東京オリンピック聖火リレー走者ランニングシャツ



1964年東京オリンピックと都市の交通

今にいきるオリンピック・レガシー

半世紀余り前の1964年東京オリンピックはさまざまなレガシー(遺産)を残しました。例えば、駅構内などいろいろな場面で目にするピクトグラム(絵文字)は、世界からの訪日客が言語を問わず目的地に移動できるようにするため、この時に本格的に導入され、普及に至ったものです。このように、オリンピックの影響はスポーツ界のみならず、社会全体にまで広く及んでいきます。特に1964

年東京オリンピックでは、総計約1兆円(関連経費を含む)といわれる経費のうち、実にその8割以上が交通インフラの整備に費やされました。そこで本展では、1964年東京オリンピックと、その実施に合わせて整備され現在まで都市の生活を支えている交通インフラに関する資料を紹介し、1964年東京オリンピックがその後の東京や港区に与えた影響について考えます。



第1章 1964年東京オリンピック・パラリンピック



第2章 1964年東京オリンピックと港区 聖火リレー/秩父宮ラグビー場 サッカー



第3章 1964年東京オリンピックと鉄道網の整備 東海道新幹線/浅草線/日比谷線/東京モノレール



第4章 1964年東京オリンピックと道路網の整備 オリンピック関連街路 青山通り/首都高速道路



第5章 東京2020大会のレガシー 高輪ゲートウェイ駅/新虎通り/虎ノ門ヒルズ駅

特別展関連プログラム

古今亭駒治の鉄道落語 オンライン

鉄道をこよなく愛する駒治師匠による1964年東京オリンピックの頃が舞台の鉄道落語「都電物語」の一席と、本展の見どころ解説をオンラインで披露。特別展の会期中限定で、ホームページからお楽しみいただけます。

今後も新型コロナウイルス感染症の状況により会期等が変更となる場合があります。ホームページにて最新情報をご確認ください。

観覧料

特別展のみ 大人 400円(320円) 小中高校生 200円(160円)
常設展セット券 大人 600円(480円) 小中高校生 200円(160円)
※()内は10名以上の団体料金
※区内在住・在学の小中高校生、区内在住の65歳以上の方、区内在住の障害者とその介助者(1名)の観覧料は無料(証明ができるものをご持参ください)

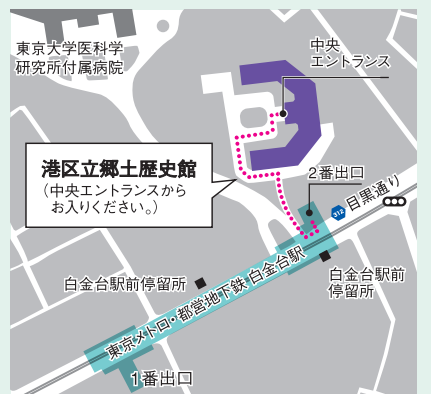
開館時間

午前9時～午後5時(土曜日のみ午後8時まで) ※入館受付は閉館の30分前まで

会期中休館日

8月20日(木)・9月17日(木)

- 東京メトロ南北線・都営三田線「白金台」駅下車 2番出口徒歩1分
- 都営バス「白金台駅前」停留所下車徒歩1分
※ 駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。



港区立郷土歴史館

〒108-0071 港区白金台4-6-2 ゆかしの杜内
電話 03-6450-2107 minato-rekishi.com

